

2026年1月18日（顕現後第2主日、A年）

メッセージ

「泊まる、とどまる」

（ヨハネによる福音書1:29-41）

司祭ヨセフ太田信三

「〇〇さんを知っている」というとき、ただ名前だけ知っているのと、その人のひとりなりまで知っているのでは大きく異なります。イエスを知っている、というのも同様です。ただキリスト教の教祖としてか、まことに救い主としてか。両者には大きな違いがあります。ヨハネ福音書には、まことの救い主としてイエスを知るため、イエスと出会うために大切なことが示されています。

洗礼者ヨハネの二人の弟子が、イエスの弟子となるためについてきます。イエスは振り返り、後をついてくるこの二人に「何を求めているのか。」と問います。彼らは問いで答えます。「先生、どこに泊まっているのですか。」これは奇妙なやり取りに感じられますが、イエスはきちんとお答えになります。「来なさい。そうすれば分かる。」この直訳は「来なさい、そして見なさい」です。彼らはイエスの泊まるところについていき、見ました。何を見たのかというと、イエスの上に霊がとどまっていることを見、イエスが神にとどまる、神の愛の内に生きるまことのメシアだということを見て、知ったのでした。

ここまで何度も使われている「泊まる」と訳されている単語は「 $\mu\epsilon\nu\omega$ （メノー）」というギリシャ語で、ヨハネ文書で最も大切な単語の一つです。驚くほど頻繁に使われていますから、是非読み返してみてください。他の箇所では「とどまる」とか「繋がる」とか「内にいる」と訳されています。なぜこの単語が大切かと言うと、「相互内在」ということが、イエスとの出会いには不可欠だからです。「相互」とは、イエスと私、「内在」とは相手の内に存在する、とどまる、ということです。イエスが私たちの内にとどまり、私たちもイエスにとどまるなら、私たちは時空を超えて救い主としてイエスを知ること、出会うことができる。このことをヨハネ文書は伝えているのです。

二人の男たちは、イエスのもとに泊まる（とどまる）ことでイエスを知り、イエスと神との交わりに迎えられました。「何を求めているのか」と問われたイエスは、この神との関係へと二人を招いたのです。二人の男はその招きに応え、イエスにとどまることで、まことのメシアと出会いました。「私たちが愛するのは、神がまず私たちを愛してくださったからです（Iヨハネ4:19）」とある通り、「相互」に「内在」できるのは、イエスがまず私たちを愛し、私たちにとどまってくださるからです。主の愛の招きに応え、イエスの愛にとどまって生きていくことができますように。